

丸山湿原群保全の会会報

(第 222 号)

発行日：2026 年 (R8) 1 月 21 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com

戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します

「わからないことをわかっていないと、わからないことはわかりません」TV ドラマ (テミスの不確かな法廷) のセリフです。なぜかピタッときた言葉です。

「無知の知 (ソクラテス)」「バカの壁 (養老孟司)」と同じような意味あいかと思いますが、すごくインパクトがありました。しかもこのセリフは「自閉スペクトラム症 (ASD)」の裁判官から発せられます。何か今の世の中を象徴しているような。と言うより、「わからないこと」が多すぎて「わからないこと」が何か「分からない」気がします。それで「わからないこと」を分かろうとしない現実が生まれる。まさしく混乱状態。何を書いているかもわからない…。

衆議院選挙、アメリカは自国の得にならない国際機関からの脱退。「侵略の力」か「正義の力」か。まさしく分からない。でもこれは「分からない」と分かっている「分からない」か？もっともっと見えない「分からないこと」が潜んでいるはず。それに目を向けないのは「バカの壁」なのかもしれません。あ～混乱…まさしくバカです。

バカでもわかることは戦争だけはしてはいけないこと。と決めつけるのもいいのかどうか？世の中は戦争をやろうやろうとしているように感じるのは私だけでしょうか。なぜなのか？諦めず「分からないことを分かる」努力は今最も必要とされることではないでしょうか。

生物多様性に関心が向かないことも全く分からない…。皆さんお金のことは分かろうとされるのですが。そこが切り口か？ (今住 1 月 18 日作成)

定期活動 ★12 月 28 日 (日) 作業 第 3 湿原刈り取り 6 名で作業

やっと本格的な冬作業を始めました。まずは侵入路から最初にある第 3 湿原。さすがに年末。参



第 3 湿原下側 左半分の刈り取り後

加者は少なく 6 名。こんな押し迫った時期に来られる方々、本当にご苦労様です。と思っていると、「家にいるとあれやれこれやれとうるさいから来てるんですよ」とある方が。実に昭和なお話です。しかし、最近は「餅つき」「お節」や「大掃除」も必須ではない世の中。楽でいいですが少し寂しいような気もします。方や「正月飾りを調達に」とも。こちらはステキな昭和。お盆や正月の飾りは地元の里地里山で調達。本来の日本の姿。立派な若松やヒサカキ (緋櫛) を持って帰られました。私もサカキ (櫛) を少々。あくまでも、湿

原整備で刈り取った不要な樹木の有効利用です。我が家はしめ縄の藁も自前。日本文化の継承者か？お金をかけずに歳神さまをお迎えいたしました。

刈り払い機は3台。手作業は3名。機械は効率がいいが散らかります。「美しく」が目的ではないのでいいのですが、繊維が長いヌマガヤはやはり湿原の外へ運び出すことが必要。いつも言いますがこれが辛い。手鎌やレーキなどで頑張りました。

倒れ込んでいる枯れた松などはそのままに。今まで片付けることが多かったのですが、生き物の隠れ家、棲家となることを期待して「ほどほど」と「適当」を目指します。楽をして生物多様性の保護です。

この日は湿原の3分の1程度の刈り取り終了。ここはそのままにして次回は第1湿原の作業を予定しています。残す部分もあっていいのでは？事情も少々ありますし…。

作業中に奇妙なものを見つけた会員がいました。湿原端の腐葉土をゴソゴソしていると白いボールが出てきたと。何？「多分キノコでしょう」と。土の中から出てきたキノコ。トリュフ？ぜひ食べようと声が出るも怪しい。豚も連れてきてないし…。そっと元の位置に戻し、もっと大きくなあれと願っておきました。いつ掘り起こすんやろ？調べてみるとショウロ（松露）の仲間ようです。地下生菌で地中に生える？



これは？ショウロ（松露）？

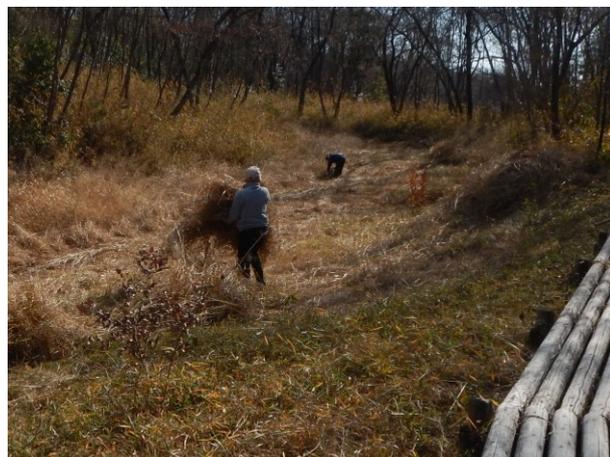


ショウロジュースではなく甘酒です



陽に輝く枯れたコウヤボウキ

な…。モラハラか？隣には枯れたコウヤボウキ（高野箒）がキラキラ輝いていました。



やはりつらいヌマガヤの運び出し作業



とりあえず埋め戻し どうやって胞子が出る？

できる？漢字のごとくマツ（松）と共生。クロマツ（黒松）との共生が一般的。「幻のキノコ」とも。アカマツ（赤松）にはマツタケ（松茸）が一般的。こちら今や幻のキノコか？しかし稀にアカマツや花崗岩質の山（砂質）にも出るとか。腐葉土の中から出てきたので全くの別物かもしれません。新種か？アカショウロ（赤松露）やニセショウロ（偽松露＝有毒）などというものもあるそうで、いずれにせよめったに見ることのできないキノコ。めったにお目にかからないものはすぐに薬草になるもの。ショウロも大変珍重されたようです。さて埋め戻してどうなるか？また掘り起こしましょう。ちなみにトリュフはこれによく似ているのでセイヨウショウロ（西洋松露）と名付けられています。ただ、全くの別物。

最後は度々お世話になっている御殿山マダムのおふるまい。「甘酒」生姜の風味がきいて疲れた体に染みわたりました。いつもありがとうございます。感謝しかありません。今回はシュトーレン。次回は？と思っはいけないでしょうか？決して要求はしていませんのでご容赦ください。要求してるが

定期活動 ★1月10日(土) 定期基礎調査 作業 第1湿原刈り取り 9名の参加

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	22	14	入口				
ハイキング・登山	49	80	第3湿原				
散歩	2	2	視点場				
来場者数計 169人 (竹筒ポスト集計)			第1湿原				
			第2湿原				

大変申し訳ありません。基礎調査と言いながらデータは来場者数のみ。 機材を忘れてしまいました。PH計もどうも調子がおかしく新調することになりました。次回はちゃんとデータを掲載します。慢性的な雨不足もあり、チェックは必要と思います。水が不足してもどうしようもないのですが。そうそう、前回は書いた年間降水量(宝塚市大原野データ)は966mm。12月末に50mm近い雨が降り、1000mmを超えるかと思ったのですが達せず。いよいよ1000mm線を下回る時代の到来のようです。稲作はどうなるか？

原木シイタケ(椎茸)の栽培も行われていますが、こちら雨不足で木が乾き過ぎてなかなか出ない状況です。西谷地域は武庫川流域で、シイタケ栽培の原木として使う木はコナラ(小櫓)。里山2次林の典型木ですが放置林となって久しく、目につくのは大体50年木から70年木。しかも猪名川流域に多くあるクヌギ(栲)は古木になっても萌芽再生しますが、コナラは40年木ぐらいから再萌芽しないとされています。ドングリは毎年できます。(クヌギは2年に一度)原木を手に入れるには、運び出しの関係で道近くでしか作業ができません。原木の確保が課題となっています。菌床シイタケが主流になるのも納得です。しかし食べてみると違いは歴然。まるでアワビのようです。



(参考) 原木シイタケ なかなか出ない

ぜひ原木シイタケをご賞味あれ。シイタケも奥が深く菌の種類もいろいろ。私のおすすめは「菌興115号」系です。菌の種類を書いている原木シイタケはまずありませんが、生産者に聞いてみるのも手かもしれません。でも雨が少なく出ないんです。命がけで木を伐って菌打ちして1年以上待って…出ない。悲しいです。

丸山湿原のコナラも運び出しは困難。刈り取り放置となっています。もったいないが仕方がない。

作業です。「その者青き衣をまといて金色の野に降り立つべし(風の谷のナウシカ)」の世界。

あれはオーム(王蟲)の触手?ですが、こちらは



今年も金色の野に降り立った天使たち

枯れた又マガヤ(沼茅)。刈払い機5台投入。さすがに早い。この日のうちに半分以上の刈り取りを。運び出しは?考えると気が滅入る。しか〜し、毎年この又マガヤは環境学習に来る小学生たちが作業体験として協力してくれます。草山を築いて終了。楽ちん楽ちん。少人数ではありますが3&4年生がんばってよ!又マガヤハウスや又マガヤソファなどで遊びながら。今年は2月3日、節分に鬼とともにやってくる予定です。鬼って誰やる?

この草刈りの風景は美しい。まるでフランスバルビゾン派ミレーの「落穂拾い」の光景。バルビゾンとは村の名前だそうで、収穫の終わった畑に残された「落穂」を土地を持たない「貧乏な人」や「寄留者」が拾い集める光景だとか。地主はわざと落穂を拾わず残し、助けたそうです。

のどかな農村風景とばかり思っていました、そんな事実が隠されていたことに驚きました。丸山湿原の作業風景は？生物多様性の危機に立ち向かう勇ましいボランティア達…。地球のベースを救うヒーローたちです。ホンマやろか？

生活と密着していないのが少し残念ですが、誇りを持って活動しています。多分…。作業できる活動メンバーが減ってきているのは気になる。会に入らなくてもOK。ぜひご参加ください。



まるでバルビゾン派の風景



鮒ずしの飯入りクッキー 滋味深い味わいでした

この作業やガイドがお金（経済活動）と結びつけばメンバーが増えるのでしょうか？ガイドについては少々お金をいただくこともありますが、エコツーリズムを確立したいものです。「エコツーリズム推進法」なるものもあるようですが「絵に描いた餅」ばかり。愚痴ばかり言っても仕方がない。

終了後のこの日の御殿山マダムのみは、一見何の変哲もないクッキー。食べてみると何か酸っぱい？「チーズですか？」「発酵食品？」マダムは微笑みながら「近い」と。考えても分からない。なんと「鮒ずし」の「飯（漬け込むご飯）」が入っているとのこと。「ほー！」とは言うが「鮒ずし」なるものがつかめない。「腐った匂い」とか「食えるものじゃない」というイメージが先行。ニゴロブナ（似五郎鮒）を使う琵琶湖の珍味。ただニゴロブナも今や絶滅危惧ⅠB類（EN）に指定。やはり本物のマダムか？お茶はジンジャーティー。ありがたいありがたい。いつもあるとは限りませんので、マダムのみは目当ての参加ははご遠慮ください。と冗談ばかり言っていると怒られます。ごめんなさい。お疲れさまでした。

予 告 県による湿原周辺間伐（今年度中）と、緊急防災林整備（来年度実施）

数年に一度行われる湿原周辺の間伐。今年は予算がついたようです。今年度中に実施される場所は第1湿原と第4湿原の間の谷筋を中心に約40アール。先日見積もりに「丹波市森林組合」の方が来られました。毎回担当されていますが「相見積もり」後の決定。作業単価も上がってさてどうなるか？林業の単価は大変低かったのですが、最近は改善されつつあるとのこと。危険と隣り合わせの仕事。見合う金額が保証されるのは当たり前です。わたしがお金を出すわけではないので言えることですが、税金の投入。無駄にならない丁寧な作業をお願いします。



見積もりに来られた丹波市森林組合のみなさん

もう一つは「緊急防災林整備」だそうで、人工林を中心に土砂崩れなどの防止を目的にしたものです。事前調査を行って来年度中に実施されるようです。湿原とは直接関係なし。しかし県・市天然記念物範囲内の作業、慎重に対応してほしいものです。これは県民緑税からの支出。

次回活動日 1月25日（日）2月14日（土）22日（日）3月14日（土）22日（日）すべて作業あり